

2025 年第 1 回厚労科研大西班分野別会議（物理技術）議事録

日 時： 2025/8/20（水） 17-18 時

方 法： Zoom

出席者（順不同、敬称略）：大西洋、齋藤正英、遠山尚紀、黒岡将彦、太田誠一、
大野達也、中村和正、岸田・北國（厚生労働省）

議案

- ・ 会議に先立ち大西先生より挨拶があった。その後、研究分担者による進捗報告があった。

1. 各自の発表

遠山尚紀先生（駒澤大学）

- ・ 目的と方法、これまでの成果が共有された。現在、品質管理機構内の放射線治療計画補助研修委員会において、作成した e ラーニング教材をどのように供給するのかを考案している。8 月に予定している会議を経たのちにトライアルを適宜実施していく予定である。
- ・ 新たな IMRT 施設基準案に関しては JASTRO を通して提出済みである。
- ・ また、黒岡先生と連携し Python と google map API を用いて、全国の放射線治療施設へのアクセス解析を行う予定である。
- ・ 大野先生から、アクセス解析に関して、物理的なアクセスのみでなく社会的・精神的な要素、施設ごとの専門性も考慮できるようになるとより研究の有用性が増すと思われる、という意見があった。
- ・ 北國先生から、より効率的な放射線治療提供体制を実現するにあたり、国単位での制度変更を唱える前に都道府県単位で協議会を建て、綿密な議論を重ねること・データを収集していくことが優先されるべきであるという意見があった。

黒岡将彦先生（東京医科大学病院）

- ・ IMRT の新要件を提出するにあたって、現行の要件と新要件を比較し、全国的にどの程度 IMRT を提供できるようになるのかについてのデータを共有した。新要件下での IMRT 提供の主なボトルネックは人材の不足であるという調査結果も明らかとなっている。
- ・ JASTRO 構造調査 2009-2019 を元にした今後の医学物理士の総数の変化を解析したが、調査に回答しない施設もあり、解析結果には幅がある。
- ・ 今後、(a) IMRT を適切に提供するためのリソース配備（人員・装置）に関する検討、(b) IMRT 提供状況の地理的要因に関する検討を実施する予定である。
- ・ また、第 130 回日本医学物理学会学術大会と日本放射線腫瘍学会第 38 回学術大会において計 3 つの発表を行う予定である。
- ・ 中村先生から人口当たりに対する IMRT 提供体制という観点も重要であるという意見があった。
- ・ 大野先生から、治療施設の集約化が進むとアクセスの悪化から治療を自己中断してしまう場合が存在するため、集約化の限界点を見極めるための議論が必要であるという意見があった。
- ・ 岸田先生から都道府県ごとの治療装置の使用年数を把握することができれば、地域の状況に即した施設配分の判断の一助になるとと思われるという意見があった。

齋藤正英先生（山梨大学）

- ・ REMOTE-IMRT trial の結果、新要件下でもこれまでと変わらない品質の治療が可能であること・Peer-review の治療計画への有用性が証明できた。英語論文化・各学会での発表を行う予定である。
- ・ また、新 IMRT 施設要件で発生するがん診療連携拠点病院等への影響も調査した結果、

少なくとも 22 施設が新たに IMRT 実施可能となることが明らかになった。

- ・ また、(a) 都道府県別の放射線治療施設数・リニアック台数、(b) 都道府県別のリニアック 1 台あたりの人口数についても調査を行った。
- ・ 今後、放射線治療提供体制についての技師・医学物理士の視点での次期がん診療整備指針提案、Japanese Blue Book の該当部分の見直しを意識した具体的基準の見直しや照射担当者と治療計画・QA/QC 担当者のあり方に関する議論を深めていく予定である。

太田誠一先生（京都府立医科大学病院）

- ・ 物理技術班の活動の内、地域課題を含む議論が遠隔治療計画の是非と治療計画補助に集約されたため、その他の地域課題については特記すべき進捗はないことが示された。
 - ・ 大西班牙のアンケートを解析し、現在の IMRT 実施状況を調査した。通常照射と IMRT を実施総数を固定し、行う割合を変化させたシミュレーションにおける物理技術者の FTE の全国平均に関して、施設規模や人口の偏りなどによる地域格差があることは明白だが、要件案などを作成する際の一助になりうるものである。
- 2. 放射線治療提供体制についての技師・医学物理士の視点での次期がん診療整備指針提案**
- ・ 遠山先生から、指針案作成に関してのロードマップが示された。人員配備に関しては担当者を中心に職種ごとに、治療や体制構築に関しては担当班を作成し個別に議論を深めていく方針であることが示された。
 - ・ 北國先生から、整備指針に新たに追加する項目に関しては現状の妥当性如何に関わらず、エビデンス・病院の類型ごとの新要件に対する適応の妥当性といった粒度が強く求められることが示唆された。
 - ・ Japanese Blue Book の該当部分の見直しに関しては、JASTRO データベース委員会の中村和正先生を中心に上記議題と伴走する形で案を作成していく予定である。9/4 に医師側からの改定案に関する会議が開催される予定である。

以上
文責：大西 洋